

1 学校教育目標	
1	夢（志）を描き、夢の実現への挑戦……志を育み、励まし、鍛え、伸ばす
2	心の教育の充実……自己肯定の心と命を大切にする心、郷土を愛する心の育成
3	生徒指導の充実……基本的生活習慣の確立及び自律心の育成
4	確かな学力の育成……基礎・基本の確実な定着、個に応じた指導の充実

2 本年度の重点目標	
(1)	特色ある学校づくりを推進する。
(2)	学力の向上と進路保障の取組を強化する。
(3)	健全な心身を育成する。
(4)	安心・安全な学校を維持する。
(5)	地域社会の期待に応え、活力ある学校づくりに努める。
(6)	定時制の特色化を推進する。

3 自己評価総括表		※「成果と課題」の部分は、○：成果 △：課題・改善・継続等				
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	○学校教育目標の具現化	○定時制教育の充実	○定時制生徒会スローガン「星空のもと夢を切り拓く」の実践	○生徒と教職員が本校定時制の一員としての誇りを持ち信頼関係の確立 ○学習・生活・進路等への的確な指導・支援の実践 ○地域や専門機関を活用した授業・講演会の実施	B	○登校指導や学校行事等での関わりを通して良好な関係構築を図った。 ○生徒の実態に合わせた学習や生活・就労の指導や支援ができた。 ○特別活動の時間を活用し、地域や専門家による講演会等を実施した。
		○生徒にとって安心・安全な環境づくり	○職員・生徒の良好な関係づくり ○生徒個々への的確な対応及び指導	○日頃から生徒との会話を重視した言語環境の実践 ○学校行事の活性化 ○生徒理解研修や毎日の連絡会時に全職員で共通理解し、組織で対応 ○家庭・関係機関との連携	A	○昼・夜2回の連絡会で生徒情報を全職員で共有し、生徒指導等に活かした。 ○多様な家庭環境や特性を持つ生徒に対し、研修や会議で意見やアイデアを出し合い支援に活かした。 ○生徒会を中心に生徒たちが主体性を持って学校行事を実施できた。
		○新学習指導要領に沿った定時制課程教育の充実	○新教育課程と本校定時制での学習指導並びに観点別評価の運用	○新学習指導計画並びに観点別評価基準の実施と改善	B	○1~3年生が新教育課程となり、改善を重ねながら観点別評価を導入している。 △今後も教務部を中心に本校定時制の特色を出した教育課程の編成と評価に取り組む予定である。

	<ul style="list-style-type: none"> ○本校定時制に関する効果的な情報発信 ○家庭への学校行事の周知・参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページや定時制だより等を活用した広報活動の充実 ○定時制だよりを年5回発行 ○すぐーるを活用した家庭への情報提供・参加の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○HPのリニューアル（レイアウト・情報発信） ○HP記事を行事1週間以内に更新 ○すぐーるを活用した家庭への情報提供・参加の推進 	A	<p>○HPのレイアウト・各ページを更新した。学校行事はできるだけ早い更新を行った。</p> <p>○広報誌「夕凧」を予定通り発行することができた。</p> <p>○すぐーるで学校行事やアンケート、休校連絡等を行い周知・参加推進を図った。</p>
○業務改革	○業務の効率化の推進	○ICTを活用した業務の効率化・時間削減	○ORPA、Forms、すぐーる等のアプリの活用による効率化	A	○ICTを活用した業務を行うことで、ペーパレス化、迅速な情報共有、データ活用が実現できた。
	○会議・研修等の効率化	○時間を有効に活用した会議・研修等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○会議等の時間短縮 ○昼の連絡会の有効的な活用 	B	○会議では、資料を事前に配付し、会議時間の短縮を行った。また昼の連絡会を有効に活用し、研修を実施した。
○働き方改革	○風通しの良い職場環境	○職員全体で課題に向かう集団形成	○職員が課題を抱え込まず意見や相談などを伝えやすい職場づくり	B	<p>○問題発生時は、迅速に情報共有を行い、「報告・連絡・相談」を常に実践した。</p> <p>○校内の会議やSC、SSW、市等の関係機関と連携し、対応にあたった。</p>
	○職員の健康・安全の保持	○職員が健康でやりがいを持って業務にあたる環境づくり	○職員が互いに変化等に気づきサポートし合えるような職場環境づくり	B	○職員の突発的な休暇等の対応も職員間でサポートしながら対処しており協力し合える職場環境が構築されている。
学力向上	○基礎・基本の確実な理解と定着	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員による個々の生徒の学力把握と分析の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力診断テスト「BIG GATE」等による学力分析結果の全職員での共有と情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ○分析結果をふまえた学習課題の設定と授業の改善、考查問題の作成 	<p>○学力分析会や生徒理解研修をもとに全職員で生徒の学力や特性の把握に努め、学習内容の計画や考查作成等に活かすことができた。</p>
	○授業参加率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参加率83.0%以上(R5年度参加率82.0%) ○安易な授業遅刻・早退・欠課の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ○欠課時数や原因の把握と共有 ○遅刻・欠席等が多い生徒との面談充実 ○担任・家庭との連携の維持 	B	<p>△授業参加率は82.3%であり、前年度を上回ったが目標には届かなかった。</p> <p>○欠課時数の把握や面談、家庭への連絡は適切に行われた。</p> <p>△安易な授業遅刻・早退・欠課が散見された。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導・支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒における学習上の課題の把握や支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の課題を全職員で情報共有するとともに協力しながら学習面等あらゆる面での課題の解決 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の情報共有や職員の相談、アドバイス等が気兼ねなくできる職員間のサポート体制づくり △個々の生徒への学習支援を目的とした考査前学習会を企画したが、参加率は低かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○担任、教科担当者や養護教諭等と生徒の情報共有を行うことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○UDや特別支援教育の視点に立った「主体的・対話的で深い学び」へと導く授業の実践 ○ICTを活用した授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○日ごろの授業を常時公開 ○生徒の状況や教授方法等について情報交換 ○ICT機器を活用した、わかりやすく、学習意欲が高まる工夫と情報の共有 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの職員が、電子黒板やタブレット端末を活用して授業を行った。 △生徒がICT機器を活用する場面に関してはあまり多くは見られなかった。
キャリア教育（進路指導）	<ul style="list-style-type: none"> ○進路意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ○就労経験者率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○就労経験者70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校集会の活用 ○インターンシップの計画・実施・振り返り 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○進路LHR「岱定らしんばん」を4回実施して進路意識の高揚を図った。就労経験者率は、70%以上である。 ○積極的な呼びかけを行い、数名の生徒が地元企業のインターンシップに参加することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ○進路保障 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路目標の達成状況 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒・保護者の進路希望の把握並びに早期の進路意識の高揚 ○進路情報の提供 ○各生徒の適性に応じた進路指導 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問や面談などで、進路希望の把握を行い、就職や進学に向けた進路意識の高揚を図った。 ○LHR等を通じて、進路情報の提供を行った。 ○個別の企業見学や訓練校等の見学を通して、生徒の適性に応じた進路指導を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ソーシャルスキルの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解に基づく進路指導の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己理解・自己肯定感・自己管理能力の育成 ○人間関係・社会形成能力の育成 ○キャリアプランニング能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○職場訪問の実施 ○LHRの活用（進路LHR「岱定らしんばん」） ○特別支援教育と連携したLHRの活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の就労先の企業訪問を各担任などで行い、進路LHR「岱定らしんばん」を実施し生徒理解に基づく進路指導を行った。 ○ソーシャルスキルについて特別支援教育と連携したLHRを実施した。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解に重点を置いた生徒指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の生育歴や家庭環境、交友関係、生活環境等の情報の共有、情報を基にし 	<ul style="list-style-type: none"> ○連絡会等での生徒情報の共有 ○随時、生徒理解研修を実施 ○登校指導、巡回指導の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○日に2回生徒情報の共有を行い、生徒理解及び適切な指導につなげることができた。 ○定期的に研修を行うことで、生徒理

		た個別の対応			解のブラッシュアップができた。 ○生徒の変化を早期に発見、状況の傾聴・把握に努めることができた。
	○基本的生活習慣の確立	○自律心の育成	○校内外のルールの遵守	○巡回指導、個人面談の実施 ○きめ細かな家庭への情報提供及び共有、家庭からの情報提供の促進 ○進路の実現を目指し、その基盤となる生活指導の実施	B ○適宜巡回と定期的な面談により、落ち着いた学習環境の維持に努めた。 ○学校と家庭、双方向の情報を共有することで、より深い生徒理解を得ることができた。そのことが問題の深刻化を未然に防ぐ一助となった。 △進路実現のための指導は実施したが基本的な生活習慣の確立等、十分に改善するには至らなかった。
人権教育の推進	○生徒会活動の活性化	○健全な心身の育成のための生徒の主体的な学校行事の運営	○生徒会行事への参加率90%以上 ○コミュニケーション能力の育成	○生徒同士で協働できる体制づくり、および適切な支援 ○生徒の主体的な活動に向けた適切な支援	B ○生徒会が主体となり、行事の内容を決定するなど、生徒主体の活動ができた。 ○学年を問わず、全校生徒での交流・協働を、行事を通して行えた。
	○人権意識の啓発	○自己と他者の尊重と人権課題への理解	○より良い人間関係の構築 ○差別について正しく学び、差別や偏見を見抜き、差別をなくすための具体的な行動ができる生徒の育成	○人権学習LHRを行い、差別について理解し考える場を提供 ○年4回人権だよりを発行 ○自己的内面を見つめ、他者を理解し行動できることを目指した人権教育の実践	B ○ハンセン病問題、狹山事件について解説し、差別をなくそうと考える場を設けることができた。 △人権だよりを年間3回しか発行することができなかつた。しかし、「言わない・書かない・提出しない」取組について全学年で考える機会を作ることができた。
	○「命を大切にする心を育む指導」の充実	○自尊感情と自己肯定感の確立	○自尊感情と自己肯定感の向上 ○学級担任等と連携し、個々の生徒における課題の把握や支援	○定時制広報を通じて生徒の頑張りを示す場を設定 ○生徒の居場所づくりを意識した学級運営 ○外部専門機関との連携	B ○HP上で、各行事や学習風景などを掲載し、生徒たちの頑張りを学校内外に示すことができた。 ○生徒理解研修を継続的に実施し、個に応じた指導や支援を行うことができた。

いじめの防止等	○いじめ及び類似事案の根絶	○他者理解及び自尊感情の向上	○いじめ事案ゼロ	○教育活動全般における人権意識の涵養 ○スクールロイヤーを活用したいじめ予防授業等の実施 ○いじめの未然防止指導、事案発生時の早期発見・早期対応、生徒・保護者・学校間の情報共有個別事案対応、事後指導に至るまで、責任を持った指導の徹底	B	○日常的な声掛けや集会等、生徒の人権意識が高まるよう努めた。 ○予定通り実施、専門的な知見を得ることで生徒の意識が向上するきっかけとなった。 ○現時点でのいじめの発生はない。未然防止及び発生時の指導体制を、さらに徹底していきたい。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	○学校運営協議会による地域との連携	○学校運営協議会の機能的な連携協力体制の構築	○学校運営協議会委員の意見等を反映した学校教育活動	○学校運営協議会委員の意見等を活かした本校の教育活動の改善	B	○学校運営協議会では学校に対する多くの意見や学校に対する期待と改善点を知ることができた。
	○荒尾市荒尾地区協議会との連携	○荒尾地区協議会運営委員会への参加	○地域住民へ定時制行事のPR及び理解	○荒尾地区協議会に参加し、地域へ定時制の取組等を説明する ○地域交流：食育講座の実施	B	○荒尾市荒尾地区協議会運営委員会へ毎月参加し、地域の方々へ本校の現況を報告した。 ○荒尾市や食改の方々を講師に迎え、食育講座で食習慣の改善に取り組んだ。
	○荒尾市防災対策会議との連携	○校内における防災意識の高揚	○あらゆる災害を想定した防災マニュアルの充実	○荒尾市総合防災訓練への参加	B	○本校は災害時物資拠点に指定されており、荒尾市防災安全課の指示のもと荒尾市職員と本校職員が連携して訓練に参加了。 ○校内では、シェイクアウト訓練、火災時避難訓練を実施した。
環境教育	○環境美化と環境負荷低減の取組の充実	○身のまわりの環境整備と節電への意識の高揚	○清掃活動や整理整頓等による環境美化と節電の取組	○教室・職員室及び周辺等の環境美化とゴミの分別、節電の取組	B	○教室などの清掃・整備は毎日なされていた。必要な生徒へ個別に片付けの支援を行った。 ○登校指導の時間等を利用し、職員が校内美化に取り組んだ。 ○今年度から始めたプラスチックゴミの分別を含め、分別は習慣化した。 ○意識して節電に取り組むことができた。 △整理整頓の手順について場面ごとに具体的に示してください。

特別支援教育の充実	○特別支援教育の職員の指導力の向上	○特別支援教育に関する職員の知識の向上および理解の深化	○障害特性や多様性に関する理解の深化と対応の充実 ○特別支援教育における進路支援に関する理解の深化	○生徒理解研修の定期的実施 ○特別支援教育における進路支援に関する職員研修の実施 ○特別支援教育に関する生徒・保護者対応、関係機関との連携についてマニュアルを作成する ○保護者への情報提供（研修、就労支援等）	B	○生徒理解研修を2回実施した。各教科担当者による「気づきシート」を作成して、生徒の状況を把握し、学習や生活面での支援に活かした。 ○職員研修を実施して、特別支援教育における進路支援の方法や進路選択の道筋について理解を深めることができた。 ○保護者へ、研修会や就労支援に関する情報を提供できた。 △個々の生徒の自己実現を支援するために、関係機関の情報を集約してマニュアルを作成する。
	○個に応じた支援の実践	○学校不適応の未然防止および早期対応を意識した支援の実践	○生徒の状況把握・情報共有 ○要配慮生徒の個別の教育支援計画等の作成 ○SC・SSW・関係機関等と連携した支援 ○ケース会議を開催して情報共有と支援の方策を検討して支援を行う	B	○健康相談週間における生徒面談結果もふまえ、生徒理解研修を実施し支援に活かした。 ○特別支援教育委員会を開催し、対象者を検討して、個別の教育支援計画等を作成した。 ○SSW、外部支援機関等とケース会議を実施し、必要な支援を検討した。 △生徒が生活基盤を整えて、自己実現できるよう支援していくことが課題である。	

4 学校関係者評価

(1) 学校経営について

- 少人数な学校という利点を活かして、生徒一人一人を大切にした教育が行われている。
- 学校評価アンケートでは「相談に親身になって対応している」、「本校に入学させて良かった」について、毎年高い数値となっている。他の項目を見ても充実感・満足度の項目が高いことが分かった。これを中学生にも伝えたい。
- 生徒と先生の距離が近く、手厚い指導が行われていることが伝わってきた。
- 定時制や全日制の良さを、地域の人たちにもさらに情報発信してほしい。
- 家から通える範囲に学校があることが重要であり、自転車で通える学校に行って欲しいという地域からの意見もある。中学校、教育委員会、学校と連携を深めなければならない。
- 自宅から自転車で3分のところに、こんなにも良い学校があって感謝している。岱志高校にたくさんの生徒が来てくれることを願っている。

(2) キャリア教育

- 多様な考え方や家庭状況の生徒が増加していることかと思うが、これまでの取り組みを継続・発展させ、卒業後を見通した進路保障に期待している。

5 総合評価

(1) 本年度の学校教育目標について

- 生徒・職員ともに本校定時制に愛着を持ち、中学時代に不登校であった生徒も、夕方から授

業を受け、学校生活の楽しさを感じ取り、学校を「居場所」と捉え、充実した学校生活を送っている。職員もまた、「生徒を第一」に考えた教育活動を引き続き実践し、生徒に寄り添いながら指導にあたっている。

- 仕事(アルバイト)と学業の両立を図りながら生活することで、学校だけでなく社会の力を借りながらコミュニケーション力の育成に繋げているところである。

(2) 本年度の重点目標について

- 生徒たちは、中学時代に不登校を経験するなど様々な課題を抱えながらも、全体的に明るく元気に登校している。生徒会を中心に生徒たちが主体的に学校行事を運営する様子が見られるなど、成長を感じられた。

- 教職員は多様な価値観を持つ生徒たちそれぞれの距離間を考えて、寄り添うような指導を心掛け、家庭と連携しながら指導に当たっている。

- 学力向上では、生徒の興味・関心を引くように、評価の観点を事前に伝えるなど授業展開の工夫や電子黒板等の有効的な活用を実践している。

(3) 自己評価総括表について

- 「授業参加率」は、目標83.0%に対し今年1月時点で82.3%だった。安易な授業遅刻・早退・欠課が見られることもあったが、現実としては、生徒たちはよく頑張って登校しており、今後も生徒たちが主体的かつ意欲的に登校するような学校の雰囲気づくりを継続させたい。

- 「授業改善」について、ほとんどの授業で電子黒板を活用して授業を行っているが、生徒のタブレット活用を促進するため、アプリを活用した授業展開行っていきたい。

- 「特別支援教育」について、委員会や生徒理解研修、ケース会議等を通して職員間や関係機関と情報共有・連携に取り組んでいるが、様々な課題を抱えている生徒が多く、今後も職員

- その他、5項目がA評価、22項目がB評価ということで、全般的には年度始めに設定した

- 目標は概ね達成した。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 生徒・保護者が安心・安全な学校生活を送れる「荒定族アーファミリー」の継続

生徒一人一人が安心して学校生活が送れるように、教職員が生徒に寄り添い、個に応じた指導を行い、生徒・保護者・職員が一緒に本校定時制を活気づけられるような関係づくりを実践し、前身校からの生徒会スローガンで脈々と継承されている「荒定家族」を継続する。

(2) 生徒・保護者等が教職員との意見交換の機会を有する。

今年度の学校評価アンケートで保護者より「先生方の優しさ温かさに感謝の日々です。安心感があるから、色々な事にチャレンジできて頑張れていると思います。」という意見をいただいた。今後も生徒・保護者から信頼を得られるように、生徒・保護者・職員が「岱志高校定時制に来てよかったです」と思える学校づくりを継続する。

(3) ICTを活用した基礎学力の充実

基礎学力の向上と学習内容の定着が不十分だと感じられる。不登校等で中学生までに身に付けるべき基礎学力が不足している。電子黒板やタブレット端末等を活用しながら、興味・関心を持たせ定着させていく。学びで得られる充実感、達成感が感じられるような授業を、生徒の実態に即しながら職員で実践していきたい。具体的には公開授業期間等を活用し、授業の感想や気づきなどを職員で共有していく。

(4) 進路指導の充実

今年度、正社員として就職した生徒は3名である。正社員雇用に向けて今後も進路学習「岱定らしんばん」等を充実させながら、生徒が主体的に進路意識を高める取組を実践していく。

(5) 生徒指導関係

本年度もいじめ事案はゼロであった。今後も問題行動の発生抑止と問題が起こった場合の早期解決のための体制構築をさらに充実していく。

また、生徒会関係では学校行事に対する生徒たち

心に全生徒を主役にする 「みんなの先生」

）特別支援教育と個に応じた生徒への対応の充実
特別支援教育について
療育手帳を取得している生徒を中心に、将来の就労に向けて、本人の自己理解を促すことが課題である。次年度は、自己理解を促すアプローチに関する職員研修を実施できるようにす

詠題である。次年度は、自己ある。

個々の状況に応じた支援を受け、将来、就労につながるように基本的な生活習慣を確立し、健康を維持できるよう生活の基盤作りをしていくことが課題である